

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市東部地域療育センター児童発達支援事業所「バレット」		
○保護者評価実施期間	令和6年11月12日	～	令和6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年11月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達や障害特性に応じた、専門的な視点による支援を行っている。	年間を通してねらいを設定し、ねらいに応じた活動内容を設定している。 集団、少人数、個別と、こどもの課題や支援内容によって柔軟に対応している。	事業所内共通のアセスメントシートを作成する。
2	保護者に向けた勉強会の充実。 こどもの理解と就学に向けた支援が行えている。	こどもの療育と並行して開催することや、動画配信で行うなど、参加しやすい方法で開催。感想用紙を提出していただくことにより、保護者の思いを職員が共有できるようにしている。	保護者同士の懇談の場の充実。
3	東部地域療育センターとの連携。	保護者の悩みに適切に応じられるよう、センターの関係職員との連携を行っている。	事業所終了後の不安に対し、引き続きソーシャルワーカーへの申し送りを行うとともに、相談の場の提供等の検討を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースが限られている。	活動内容によっては十分なスペースが確保できなかったり、設定替えに時間と労力を要することがある。	活動内容、環境設定の再検討を行う。 パーティションを利用するなどし、空間を最大限有効活用できる設定を探る。
2	保護者同士の交流の機会の不足。	懇談会の回数が少なく、クラスによっては十分な交流の機会が提供されていない。	懇談会の回数を増やし、テーマトーク、フリートークの場を充実させることを検討する。
3	情報の提供や伝達の方法、周知の仕方について。	1年間という限られた期間の中で、こどものこと就学のことなど様々な情報を提供しているため、保護者が把握しきれないと思われることがある。	事業所内の掲示板の有効利用をするなどし、保護者がより情報を受け取りやすい環境を整える。